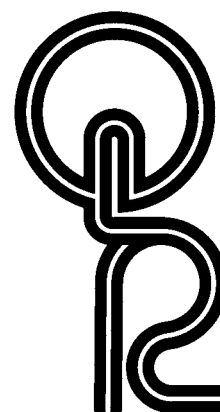


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 30 No.2, 2023



とづらはら
 神奈川県相模原市緑区名倉にある葛原層の露頭。相模川流域の後期更新世の堆積段丘を構成する本層の中部の細粒砂・シルト層中には、On-Pm1 や K-Tz、Aso-4 をはじめとする複数の（広域）テフラ層が挟在することが知られている。（撮影：高橋尚志）

Vol. 30 No. 2

May 1, 2023

2023 年大会案内（第 4 報）..... 2	「第四紀研究」投稿規定の改訂と別刷・
JpGU2023 案内（第 3 報）..... 7	カラー印刷料金変更のお知らせ.. 10
学生会員継続届け提出のお願い..... 9	執行部会議事録.....11
学会賞・学術賞受賞記念講演会報	評議員会議事録..... 12
告.....10	会員消息.....20

◆日本第四紀学会 2023年大会案内（第4報）

本大会は一般研究発表（口頭およびポスター）、シンポジウム、普及講演会、各種巡検を中心に、早稲田大学所沢キャンパス（埼玉県所沢市）を会場として開催します。開催方法は原則対面方式として、一般公開となるシンポジウムおよび普及講演会についてのみ Zoom ライブ中継を併用したハイブリッド方式で実施します。ただし、社会状況によっては変更の可能性があります。一般研究発表、各種参加申込等については、昨年と同様に大会専用サイト（6月初旬にサイトオープン予定）からの申し込みとなります。

1. 全体概要

開催会場：早稲田大学所沢キャンパス（〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15）

最寄り駅：西武池袋線 小手指駅（池袋駅から急行で約30分）

駅から無料スクールバスまたは路線バスで約15分

<https://www.waseda.jp/top/access/tokorozawa-campus>

開催日程（全期間）：2023年8月31日～9月4日

8月31日（木）プレ巡検 評議員会

9月1日（金）一般研究発表（口頭及びポスター）

9月2日（土）一般研究発表（口頭及びポスター） 総会 懇親会（開催保留）

9月3日（日）午前 シンポジウム（一般公開／ハイブリッド形式）

午後 普及講演会（一般公開／ハイブリッド形式） アウトリーチ巡検

9月4日（月）専門巡検

共催：早稲田大学人間科学学術院

後援：所沢市、所沢市教育委員会、公益財団法人トトロのふるさと基金（いずれも予定）

協力：早稲田大学自然環境調査室

2. 各種締切日

・一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出締め切り：7月13日（木）17時

・公開シンポジウムの講演要旨原稿提出締め切り：7月13日（木）17時

・巡検参加申し込み締め切り：8月1日（火）17時

・参加申し込み締め切り：8月25日（金）17時

・プログラム公開：7月28日（金）（予定）

※巡検参加は申し込み順となるため、早期に締め切ることがあります。

3. 申し込み方法

各種申し込みは、大会専用サイト（<https://sites.google.com/view/2023jaqua/>）から申し込んでください。申し込み方法の詳細については、大会専用サイトを通じてお知らせいたします。大会専用サイトは準備ができ次第、学会メーリングリスト等で周知いたします。サイトオープンは6月初旬を予定しています。

4. 大会参加費

会員：1,000円、非会員：2,000円

大学院生・学部学生（会員・非会員問わず）、70歳以上の会員および9月3日のみ参加する方：無料
各種巡検に参加される方、9月2日、3日に昼食を事前注文される方については、別途費用がかかります。

5. 詳細スケジュール・会場

8月31日（木） 8:30～15:00 プレ巡検
（時間未定） 評議員会

9月1日（金） 9:00～受付開始
9:30～11:30 一般研究発表
11:30～12:00 ポスターショートトーク

- 13:00～14:00 ポスター発表
 14:00～17:30 一般研究発表
 9月2日(土) 9:00～受付開始
 9:30～11:30 一般研究発表
 11:30～12:00 ポスターショートトーク
 13:00～14:00 ポスター発表
 14:00～15:45 一般研究発表
 16:00～17:30 総会
 懇親会(開催保留)
 9月3日(日) 9:00～受付開始
 9:30～12:30 シンポジウム
 13:30～14:50 普及講演会
 15:00～17:00 アウトリーチ巡検
 9月4日(月) 9:30～15:30 専門巡検

会場：100号館 211教室：一般研究発表、シンポジウム、普及講演会会場
 100号館 アトリウム：ポスター会場
 100号館 212教室：昼食・休憩室
<https://www.waseda.jp/navi/av/tokorozawa/zoom-a.html>

6. シンポジウム「都市環境～ウェルビーイングな社会創出のための第四紀研究」

趣旨：第四紀学は、都市域の社会形成の一部となっている自然環境をどのように捉えていくことができるのか。また、人新世に突入する時代において、SDGs(持続可能な開発目標)が掲げるウェルビーイングな社会創出のために貢献できることは何か。本シンポジウムは都市環境におけるその現状や課題を共有しながら新しい研究テーマの着想に至るような内容とします。シンポジウムでは、都市環境の現在と課題について、会員外の講演者を含めて5つのテーマ(分野)からの話題を提供いただき、総合討論を実施します。

(プログラム)

- 9:30～9:35 趣旨説明 山田和芳(早稲田大学人間科学学術院・教授)
 9:35～10:05 テーマ1：地域社会と気候変動政策 天野正博(早稲田大学人間科学学術院・名誉教授)
 10:05～10:35 テーマ2：都市の水害・治水 知花武佳(政策研究大学院大学・教授)
 10:35～11:05 テーマ3：都市型自然保全 北浦恵美(トトロのふるさと基金・事務局長)
 11:05～11:15：休憩
 11:15～11:45 テーマ4：都市の生物多様性とリスク 岸本年郎(ふじのくに地球環境史ミュージアム・教授)
 11:45～12:15 テーマ5：都市の環境史 藤木利之(岡山理科大学・准教授)
 12:15～12:30 総合討論

※タイトルは確定次第、大会専用サイトにて順次掲載予定。

※プログラムは今後変更になる可能性があります。

7. 普及講演会「武蔵野台地をとりまく関東平野の『でこぼこ』風景を読む」

講演者：鈴木毅彦(東京都立大学・教授)

趣旨：第四紀学の成果によって解き明かされてきた武蔵野台地を含めた関東平野の成り立ちについて、目の前に広がる景色から解説する一般市民向け講演会を実施します。

定員：会場120名、Zoomライブ中継あり。

※詳細は、大会専用サイトにて順次お知らせいたします。

8. 巡検

各種巡検の情報は2023年4月10日現在の情報です。

すべての巡検は天候等によっては変更・中止・延期の可能性があります。

実施内容や、申込方法の詳細などは今後大会専用サイトを通じて最新の情報を掲載します。

(1) プレ巡検「狭山丘陵南部、玉川上水を巡る」(8月31日)

内 容：狭山丘陵南部に広がる武蔵野台地における人の暮らし・知恵の痕跡を巡ります。

案内者：宇津川喬子(法政大学)、小森次郎(帝京平成大学)ほか

方 法：バスと鉄道を利用しながら、一部徒歩にて移動します。街歩きレベルです。

行 程：西武狭山線・山口線「西武球場前駅」集合(8:30)、JR 青梅線「羽村駅」解散(15:00)

バス・鉄道と徒歩移動によって、村山上貯水池堰堤、狭山丘陵内のテフラ層、軽便鉄道跡のトンネル群、玉川上水、立川断層、羽村堰などを見学の予定。

定 員：15名(先着順)

参加料金：会員200円、非会員(一般)500円(資料代、保険代)

※集合場所まで、解散場所からの交通費、行程中に発生する交通費(600円程度)、および昼食の「村山かてうどん」はすべて各自負担となります。

※熱中症対策として、天候によっては予定を短縮する場合があります。また、徒歩による移動を極力減らした行程を予定していますが、帽子の着用、水筒やペットボトル飲料の持参を強く勧めます。

(2) アウトリーチ巡検「里山の風景を知り学ぶ、楽しい里山歩き会 ～早稲田大学所沢キャンパス内に見られる武蔵野の風景～」(9月3日)

内 容：早稲田大学所沢キャンパスは狭山丘陵の一角に位置します。キャンパスの自然環境を特徴づけているのは、狭山湖水源林から連なる里山林と水田放棄跡の湿地です。コナラ、エゴノキが優占する雑木林やシラカシを中心とした旧屋敷林、ヨシなどの湿性植物が繁茂する湿地が、多様な生物の生息環境を作り出しています。アウトリーチ巡検では、湿地保全活動をしているボランティア学生も交え(予定)、里山の風景を楽しく知り学び、保全する意義について考えます。

案内者：竹内大悟(早稲田大学・自然環境調査室)、久保純子(早稲田大学・教育・総合科学学術院)、早稲田大学学生ほか

方 法：早稲田大学所沢キャンパス発着、徒歩移動

行 程：キャンパスB地区に移動して、地区内の散策路を歩きながら谷津湿地、湧水地の見学、里山植生や小動物の観察を行います。

定 員：30名(先着順、親子可、会員も参加可能)

参加料金：100円(保険代のみ)

※長袖、長ズボン、帽子の着用を推奨します。

※熱中症対策として、水筒やペットボトル飲料の持参を強く勧めます。

(3) 専門巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」(9月4日)

内 容：関東平野西縁の丘陵部に露出する仏子層は、広域テフラを挟みながら植物・動物化石が多産する海成層と淡水成層で構成され、第四紀が始まってからおよそ100万年間の沿岸～陸域環境変遷が明らかにされています。本巡検では、主に入間川沿いで露出する加治丘陵に分布する仏子層の露頭観察を通じて、層序、産出化石や年代について観察・議論する機会とします。

※観察露頭の多くは入間川の現河床に位置します。当日の天候や河川水位によっては観察不可となる可能性があります。実施できない場合は2023年12月ごろに延期して実施する予定です。

案内者：納谷友規・水野清秀(産業技術総合研究所)ほか

方 法：日帰り(現地集合、現地解散)徒歩移動

行 程：西武池袋線「仏子駅」集合(9:30)

西武市民運動場～阿須運動公園付近の入間川河床を中心に観察(入間川を上流に向かって移動)
西武池袋線「元加治駅」解散(15:30)

定 員：20名(先着順、会員限定)

参加料金：1,000円(資料代、保険代込)

※昼食は行程中の公園で各自お取りください。近くにコンビニ、スーパーがあります。

※長袖、長ズボン着用の上、長靴を持参することを推奨します。

※集合場所まで、解散場所からの交通費は各自負担となります。

9. 大会参加する方への注意事項

(1) 来場方法

小手指駅からはスクールバス(参加者も利用可能、無料)もしくは路線バス(西武バス、片道200円)をご利用ください。所要時間はどちらも約15分。路線バスをご利用される方は、系統小手02早稲田大学行きで[終点-早稲田大学]バス停まで、もしくは系統小手09宮寺西行きで[芸術総合高校]バス停で下車して徒歩5分となります。

スクールバス運行情報：<http://www.waseda.jp/tokorozawa/kg/student-life/transportation.html>

西武バス運行情報：<https://www.seibus.co.jp/sp/>

また自動車での来場も可能です。その場合キャンパス内北駐車場、正門駐車場を利用ください。駐車券の処理が必要ですので、大会受付にて駐車券の提示をお願いします。

(2) 昼食事前注文

9月2日(土)および3日(日)については、キャンパス内の購買ショップ・食堂が閉店しております。また、近隣にもコンビニやスーパー、飲食店はございません。バス乗車前に小手指駅周辺のコンビニ等での昼食購入を強くお勧めします。

また、両日についてはお弁当(800円)の事前注文を承ります。希望者は大会専用サイトから事前注文をお願いいたします。注文後のキャンセルはできませんのでご了承ください。当日受付にてお渡しします。

(3) 懇親会

新型コロナウイルスの感染症法上の「5類」への分類引き下げの状況を注視しながら、6月中に判断します。現状は「開催保留」としております。

なお、実施の場合は所沢キャンパス内生協食堂もしくは、小手指駅付近の飲食店での開催を予定しております。

決定次第、大会専用サイトにてお知らせいたします。

10. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：山田和芳(早稲田大学)

実行委員：久保純子、内記昭彦、宋苑瑞(以上、早稲田大学)、納谷友規(産業技術総合研究所)、植木岳雪(帝京科学大学)、小森次郎(帝京平成大学)、目代邦康(東北学院大学)

行事委員会：工藤雄一郎(委員長、学習院女子大学)、池原実(高知大学)、箱崎真隆(歴博)、奥野充(大阪公立大学)、目代邦康(東北学院大学)

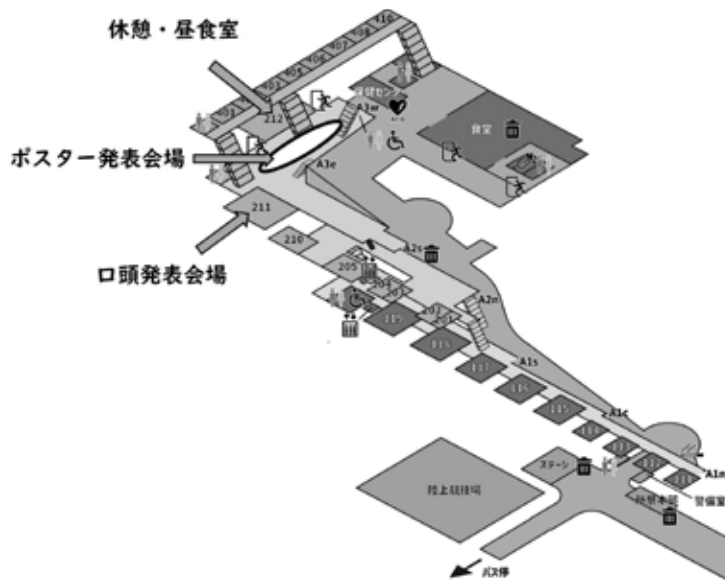
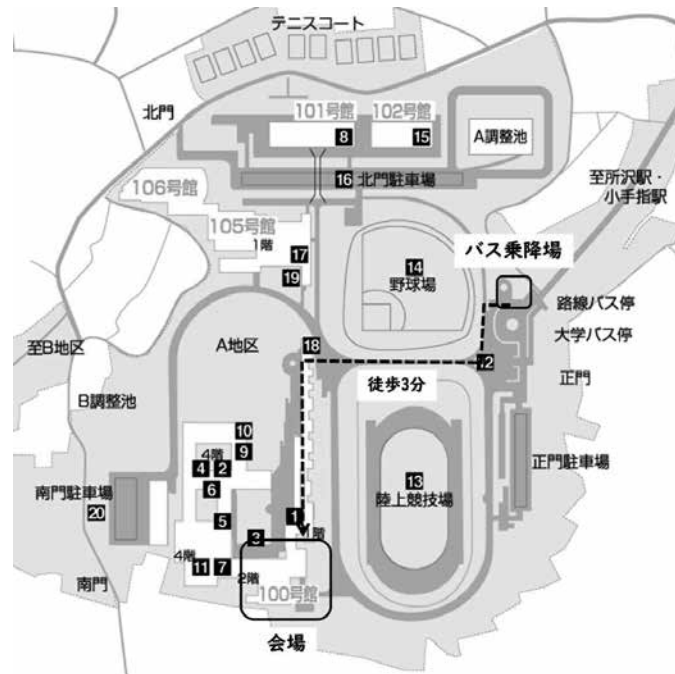
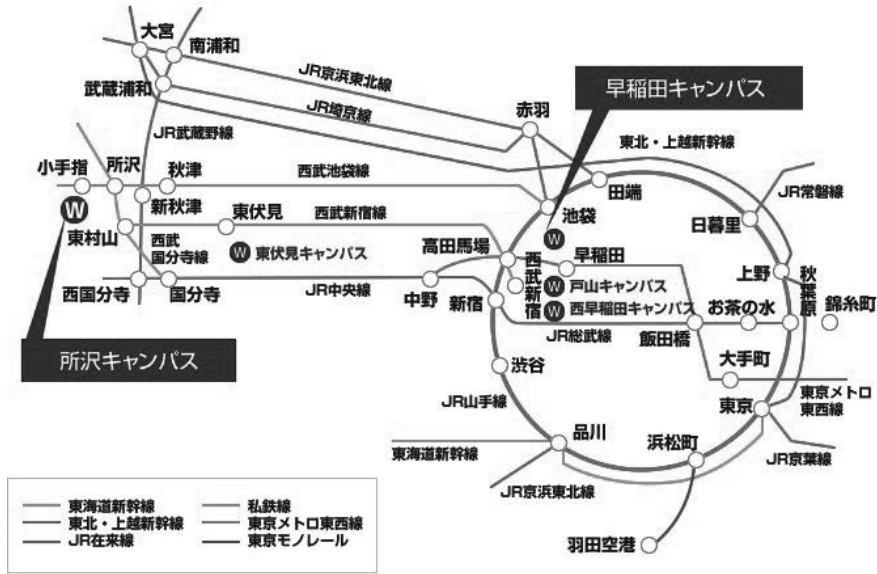
※行事委員会については2023年7月より新役員が引き継ぐ予定です。

連絡先：2023年大会実行委員会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15 早稲田大学人間科学学術院 山田和芳

Tel 04-2947-6729 メール:jaqua2023_meeting(at)googlegroups.com ((at)を@に変える)

会場案内(次ページ)



◆日本地球惑星科学連合 2023 年 (JpGU2023) 大会 (第3報)

- ・期日：2023 年 5 月 21 日 (日) ~ 5 月 26 日 (金)
- ・開催方式：ハイブリッド形式 (現地開催+オンライン開催)
- ・現地開催会場：幕張メッセ (千葉県千葉市美浜区)
- ・大会 HP：https://www.jpgu.org/meeting_j2023/
- ・参加登録締切：5 月 25 日 (木)

※現地・オンライン参加の区別なく必要

※現地参加するためには来場前日までの大会参加登録が必要

なお、現地参加する場合の留意点として、大会が定める新型コロナウイルス感染拡大防止対策が求められます。詳細については大会 HP をご確認ください。

■第四紀学会関連セッション

セッション記号	セッション名	口頭発表日時* (会場**)	現地ポスター発表*	オンラインポスター*	発表言語***
H-QR03	第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス	5/21 AM1, AM2, PM2 (201B)	5/21 PM3	5/21 PM1	J
H-DS08	人間環境と災害リスク	5/23 PM1, PM2 (201B)	5/23 PM3	5/24 PM1	J
S-SS13	活断層と古地震	5/22 AM2, PM1 (301A)	5/22 PM3	5/23 AM2	J
A-HW18	流域圏生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸海域まで	5/26 AM1 ~ PM2 (105)	5/26 PM3	5/25 AM2	E

*：AM1=9:00 ~ 10:30 AM2=10:45 ~ 12:15 PM1=13:45 ~ 15:15 PM2=15:30 ~ 17:00 PM3=17:15 ~ 18:45

**：幕張メッセ国際会議場内の部屋番号

***：J = 日本語 or 英語 (発表者選択) E = 英語

■第四紀学会単独・主催セッションプログラム

紙面の都合上、発表者は一部省略しての掲載となります。詳細については大会 HP を参照ください。5 月 12 日より予稿 PDF 公開となります。

●H-QR03 『第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』(コンビーナ：山田和芳、堀 和明、田村 亨、ト部厚志)

口頭講演：

- 9:00 ~ 9:15 鏡味沙耶ほか：火山ガラスの化学組成に基づく宮崎平野コアのイベント堆積層の対比
- 9:15 ~ 9:30 鈴木毅彦ほか：関東平野上総層群に含まれる約 1.65 Ma に降下した 2 枚の前期更新世テフラ Ob3-Kd31B と SYG-Kd29 の認定とその意義
- 9:30 ~ 9:45 レゲット 佳ほか：岩手県侍浜の海成段丘における表面照射年代測定に基づく離水年代
- 9:45 ~ 10:00 林崎 涼ほか：茨城県那珂台地の MIS 5c-e 海成段丘堆積物の光ルミネッセンス年代測定
- 10:00 ~ 10:15 中澤 努ほか：東京低地の埋没地形および沖積層の層相変化に伴う地盤震動特性の変化：1923 年関東地震の被害分布との関連
- 10:15 ~ 10:30 北村晃寿・三井雄太：1974 年 7 月洪水 (七夕豪雨) の浸水深データのデジタル化と 2022 年 9 月洪水との自然的条件・浸水深の相違について
- 10:45 ~ 11:00 鈴木健太ほか：アナトリア中部カマン・カレホック遺跡近傍古沼地堆積物掘削試料を用いた青銅器時代以降の地域的環境復元：予察的研究
- 11:00 ~ 11:15 佐竹 渉ほか：XRD および WD-XRF を用いたアナトリア中部カマン・カレホック遺跡北部の古沼地堆積物の分析による青銅器時代以降の地域的環境復元：予察的研究

- 11:15 ~ 11:30 多田賢弘ほか：アナトリア中部カマン・カレホユック遺跡における前期青銅器時代のゴミ堆積物の層序復元
- 11:30 ~ 11:45 多田隆治ほか：ITRAX を用いたカマン・カレホユック遺跡ピット充填堆積物の連続分析：人間活動と技術進化史の高解像度復元に向けて
- (11:45 ~ 12:15 ポスターフラッシュトーク)
- 15:30 ~ 15:45 Aan Dianto ほ か：Paleoenvironmental changes of Lake Shinji and the Izumo Plain in Shimane Prefecture during the Holocene: sediment analyses of grain size and ITRAX μ -XRF for the HK19 core
- 15:45 ~ 16:00 仲村康秀ほか：プランクトン群集への DNA メタバーコーディングを用いた古環境復元：宍道湖における研究例
- 16:00 ~ 16:15 川幡穂高：紀元前 11 世紀の寒冷気候が促す商人の誕生と前 10 世紀の弥生時代の開始
- 16:15 ~ 16:30 七山 太ほか：釧路市春採湖から採取された年縞堆積物コアの解析計画：1 次的な研究成果と今後の展望
- 16:30 ~ 16:45 酒井恵祐ほか：花粉分析に基づく北海道春採湖における過去 8,500 年間の植生変遷
- 16:45 ~ 17:00 谷川 亘ほか：桧原湖湖底遺跡の湖底堆積物に記録される自然災害と人工改変

ポスター講演：

- 立石 良ほか：火山ガラスの化学組成データに基づくテフラ対比の方法に関する研究—北陸地域の鮮新-更新統テフラを例にして—
- 渡辺 樹ほか：会津地方、矢ノ原湿原における過去 10 万年間のテフラ層序
- 堀 和明ほか：Beach-ridge development in the southern Sendai coastal plain, northeastern Japan
- 杉中佑輔ほか：古多摩川の浸食により武蔵野台地に置き換わった多摩丘陵～ MIS6 以降を中心に～
- 岡崎浩子ほか：関東平野東部の MIS5c の海浜平野の発達過程
- 植木岳雪：高知県、室戸半島における沖積層の層序と編年：関東平野の沖積層との違い
- 白井正明ほか：山梨県大月市～上野原市に残存する富士相模川泥流（ラハール）堆積物の露頭
- 佐藤善輝ほか：鬼怒川・小貝川低地における沖積層の堆積環境変遷
- 根来湧輝ほか：霧多布湿原における埋没浜堤の年代と堆積構造
- 福與直人ほか：Reassessment of Lagoon-Specific Marine Reservoir Effects in Tongatapu, Kingdom of Tonga, over the Past 3000 Years
- 松野佑香ほか：北海道釧路市春採湖における近現代の地震と珪藻分析による古環境の復元
- 唐 双宁ほか：貝形虫化石群集変化からみる台湾南部大鵬湾の過去 2500 年間における古環境変動
- 天野敦子：ボーリング試料の全有機炭素、全窒素、全硫黄濃度による更新世以降の伊勢湾の堆積環境変遷
- 山田和芳ほか：鹿児島県さつま湖の湖底地形と鎌倉時代以降の堆積環境変遷

● S-SS13 『活断層と古地震』（コンビーナ：小荒井 衛、佐藤善輝、白濱吉起、安江健一）

口頭講演：

- 10:45 ~ 11:00 服部健太郎：高知県の江戸時代の地震史料の検討
- 11:00 ~ 11:15 橋本 学ほか：久保野家文書に基づく室津港の隆起の再検討
- 11:15 ~ 11:30 石橋克彦：887 年仁和地震の震源域は南海トラフか大阪湾断層か？
- 11:30 ~ 11:45 藤野滋弘・松浦律子：887 年仁和地震の震源は本当に南海トラフなのか？
- 11:45 ~ 12:00 林 豊：文献調査による日本への歴史遠地津波の信頼性の検討（招待講演）
- (12:00 ~ 12:15 ポスターフラッシュトーク)
- 13:45 ~ 14:00 西村裕一・千葉 崇：珪藻分析で推定した千島海溝沿いの 17 世紀巨大地震に伴う地殻変動
- 14:00 ~ 14:15 芦 寿一郎ほか：相模湾の三浦海丘西側斜面における断層変位と湧水活動（招待講演）
- 14:15 ~ 14:30 堤 浩之：地下地質資料の解析による京都盆地と大阪平野の境界部周辺の活構造
- 14:30 ~ 14:45 小松原 琢：19 世紀中期以降における地震断層出現事例から再考してみた活断層調査の目標
- 14:45 ~ 15:00 近藤久雄ほか：トルコ南東部の東アナトリア断層系における 2014 年トレンチ調査と大

地震の空白域 (招待講演)

(15:00 ~ 15:15 ポスターフラッシュトーク)

ポスター講演:

1. 石村大輔ほか: LiDAR 差分解析による熊本県西原村小森周辺の 2016 年熊本地震時の 3 次元変位量分布
2. 小松原 琢ほか: 最終間氷期海成粘土層を基準面とする海陸境界域の活構造評価—伊勢湾周辺の事例—
3. 三條竜平・須貝俊彦: 広域応力によるカルデラ境界断層の再活動現象: 西南北海道赤井川カルデラの事例
4. 中島展之ほか: 常時微動観測により推定した長野県白馬村堀之内地区周辺における地盤特性と断層の関係
5. 川嶋涉造・堤 浩之: 浅部地下構造調査に基づく奈良盆地東縁断層帯南半部の断層分布形状と上下変位速度分布
6. 高橋直也: 岩盤河川の急峻度と活断層の上下変位速度の関係
7. 岡田真介ほか: 糸魚川—静岡構造線断層帯北部・大町市平海ノ口における浅層反射法地震探査
8. 越谷 信ほか: 山形県庄内平野に伏在する活断層の側方延長
9. 石山達也ほか: 森本・富樫断層帯中央部の深部構造探査
10. 酒井 亨・高木秀雄: 福島県いわき市に発達する湯ノ岳断層の端部性状と古応力
11. 岡田直也ほか: 根尾谷断層最新すべり面における方解石の特徴と鉱物充填
12. 澤田明宏・平松良浩: 森本富樫断層帯周辺域の重力異常調査
13. 大上隆史ほか: 周防灘における高分解能反射法音波探査
14. 白濱吉起ほか: 津軽山地西縁断層帯南部の地下構造と平均変位速度の推定
15. 青木駿典: 岐阜県本巣市根尾長嶺・根尾谷断層ボーリングコアの帯磁率分布からみた最新すべり面の特徴
16. 馬 博文ほか: 海成段丘の地形解析と宇宙線生成核種年代測定から推定される衝上断層の活動: 日本海北東沿岸からの事例研究

◆学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

日本第四紀学会では、正会員(学生)会費(5,000円)にて継続する場合、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出していただくことになっています。

2023 年度 (2023 年 7 月 1 日 ~ 2024 年 6 月 30 日) を正会員 (学生) として、継続希望される方は、A4 判の用紙 (様式自由・ワープロ使用) に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを 2023 年 6 月 2 日 (金) までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。

本届が提出されない場合は、2023 年度第 1 回目会費請求時に、通常の正会員会費 (9,000 円) にて会費請求がされますので、ご注意下さい。

また、日本学術振興会特別研究員 (PD) や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先: 〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号
新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com ((at)を@に変える)

TEL: 03-5291-6231

提出方法: 郵便もしくはメール添付にてお送り下さい。

◆ 2022 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会報告

国立歴史民俗博物館 篠崎鉄哉

2023年2月18日に2022年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会が開催され、学会賞受賞者である池原 研会員(産業技術総合研究所)、学術賞受賞者である須貝俊彦会員(東京大学)と澤井祐紀会員(産業技術総合研究所)の受賞を記念する講演が行われた。本年も昨年同様にオンラインでの開催となったが、100人近い聴講者の参加があった。

池原会員は「巨大地震時に海底で起こること、そしてその地層記録と新たなチャレンジ」と題し、巨大地震発生時に海底ではどのような現象が生じているのか、様々な海域・イベントを対象に海水や表層堆積物の分析から行われた研究成果を紹介された。海底域は陸域に比べて調査が極めて困難であるが、このような議論が可能なのも池原会員がこれまでに行ってきた膨大な回数の調査航海によるものと思われる。

須貝会員は「湿潤変動帯島弧の山地・河川・平野の地形発達史研究—回顧と展望—」と題して講演された。地形発達史の研究に関して欧米大陸の地形学から日本に入ってきた経緯の話に始まり、須貝会員が行ってこられた地形発達史に関する研究を中部傾動、関東地方にまとめて紹介された。大陸から島弧へと輸入された地形発達研究が今後、サスティナビリティ科学や人為誘導地形への予測へと役立てられていくのではないかと展望が述べられた。

澤井会員は「地層の記録が明らかにする過去の巨大地震・津波」というタイトルで講演された。珪藻から復元した地殻変動・海面変動を基に検出した海溝型巨大地震に関する研究や、国内外の様々な地域で行われてきた津波堆積物研究など、澤井会員が2011年東北地方太平洋沖地震・津波以前から精力的に行ってきた巨大地震・津波に関する研究が紹介された。研究の性質上もあり、社会との繋がりをどうすべきかを深く考えながら研究を進めている様子を感じ取れた。

冒頭の挨拶で鈴木毅彦会長がおっしゃっていた通り、池原会員の海洋、須貝会員の陸上、澤井会員の海岸と、第四紀の空間的な広がりを感じることができる内容であった。どの受賞者も、第四紀学の基礎とも言えるフィールド調査が根幹にあり、多忙を極めるであろう現在でも「現地でモノを視る」ことを重視して研究に取り組んでいるものと感じた。今回の講演では受賞者の素晴らしい研究成果を学ぶことができたが、その背景には並々ならぬ苦悩や努力といった濃密な研究生活があったのであろうと窺い知れる。講演を拝聴して感じたのは、研究が進むことで分かることもあるが、同時に分からないことも見えてくるという点である。その新たな疑問が研究の原動力になっているものと思われる。新たな疑問の中、3人は今どのような第四紀の将来を思い描いているのか、早くも今後の研究成果が楽しみである。

◆ 「第四紀研究」投稿規定の改訂と別刷・カラー印刷料金変更のお知らせ

(1) 2023年3月22日付けで、第四紀研究「投稿規定」の一部を改訂しました。主な改訂ポイントは次のとおりです。①「6. 投稿手続き」を電子投稿を主とする表現に修正 ②「図版」の削除 ③ 提出原稿等の取り扱い(掲載の可・不可にかかわらず原則として編集委員会の責任で処分)

新しい「投稿規定」は学会ホームページに掲載しています。

(2) 別刷単価およびカラー頁(冊子体)印刷料金の変更

2023年3月22日評議員会において料金改定(値上げ)が承認されました。新しい別刷単価表と冊子体におけるカラー頁印刷料金を、学会ホームページに掲載しています。なお、新しい投稿規定においても、超過ページ料金は変更ありません。

新しい「投稿規定」、「別刷単価表」およびカラー頁印刷料金は、冊子体では第63巻1号(2024年2月発行予定)に掲載します。インターネットを通じた資料の入手が難しい方は事務局までご連絡ください。

(投稿規定・別刷単価表リンク・カラー頁印刷料金)

<http://quaternary.jp/journals/toukou3.html>

(編集委員会)

◆日本第四紀学会 2022 年度第 4 回執行部会議事録

日 時：2023 年 2 月 23 日（水）9:00～12:30
 方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議
 出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、
 須貝俊彦（副会長）、水野清秀（庶務）、
 齋藤めぐみ（会計）、山田和芳（渉外）、
 田村 亨（領域 1）、堀 和明（領域 2）、
 海部陽介（領域 4）、目代邦康（領域 5）
 欠席者：工藤雄一郎（行事）、那須浩郎（広報）、
 苅谷愛彦（編集）、卜部厚志（領域 3）

主な報告事項

- (1) 3 件の転載許可申請を許可した。
- (2) 2 月 8 日（水）に春恒社にて第 1 回選挙管理委員会が開催され、2023-2024 年度役員選挙の予定、選挙人名簿が確定された。会告通知は 3 月 1 日、立候補・推薦候補受付締め切りは 3 月 20 日、投票期間は 4 月 5 日～24 日。評議員数は領域 1:6 名、領域 2:9 名、領域 3:6 名、領域 4:8 名、領域 5:6 名、計 35 名（現在より 4 名減）。
- (3) 印刷会社から「第四紀研究」、「第四紀通信」に関する印刷費の値上げの連絡があり、これを承認した。
- (4) 2023 年 1 月 31 日時点での 2022 年度会計収支中間報告資料を作成した。
- (5) INQUA2023 若手派遣支援に 3 名の応募があり、会長・副会長で審議を行い、各人へ 25 万円ずつの支援を行うこととなった。
- (6) 「第四紀研究」第 62 巻 1 号を刊行した。
- (7) オンライン編集委員会を 4 回開催し、論文の受理及び著者からの問い合わせに関する審議を行った。また、2021 年大阪大会シンポジウム特集号及び 2021 年福岡シンポジウム特集号の各編集委員会において、オンライン受理審議を行った。
- (8) 執筆要項と投稿用送り状を部分修正し、「第四紀研究」第 62 巻 1 号に掲載した。
- (9) 「第四紀通信」第 30 巻 1 号を編集し、刊行した。
- (10) 会員メーリングリストの配信方法を、会員マイページから配信する方式に変更した。
- (11) 2023 年大会（早稲田大学所沢キャンパス）の準備を進めた。予定は、8 月 31 日：プレ巡検、

- 9 月 1 日・2 日：一般研究発表、9 月 2 日：総会、9 月 3 日：シンポジウム（仮テーマ：都市環境～ウェルビーイングな社会創出のための第四紀研究）、普及講演会、アウトリーチ巡検、9 月 4 日：専門巡検。
- (12) 2022 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会を 2023 年 2 月 18 日（土）に Zoom オンラインで開催した。事前登録者：165 名、当日参加者：101 名。
- (13) 2023 年 1 月 20 日（金）に日本地球惑星科学連合（JpGU）臨時総会が開催され、会長が出席した。
- (14) JpGU2023 大会の投稿が 2 月 17 日に締め切られ、「第四紀」セッション 30 講演、「活断層と古地震」26 講演となった。
- (15) 2023 年 3 月 2 日（木）に開催される研究集会「古気候研究におけるプロキシとモデルの融合」（主催：東京大学大気海洋研究所）に共催した。
- (16) 領域 4 が中心となって 2023 年 3 月 5 日（日）にオンライン公開シンポジウム「縄文時代早期人とその生態—群馬県居家以岩陰遺跡を中心に—」を開催する。8 名による講演が行われる。

主な審議事項

- (1) 顕彰規程等の改正に関する検討を進め、若手・学生発表賞の受賞者は 2 回まで、若手の対象年齢は 35 歳以下として、2023 年大会から適用できるように、次回評議員会に関連する規約の改正案を提案することにした。また、若手受賞者への副賞、各顕彰受賞者への記念品等に関するアンケートを実施予定とし、評議員会で意見交換することにした。
- (2) 2024 年大会を仙台で開催可能か打診しており、引き続き検討することにした。
- (3) 終身会員制度について、検討を進めることにした。
- (4) 「第四紀研究」掲載論文の別刷り 50 部を希望著者に無料配布する案について議論を行い、さらに検討を進めることにした。
- (5) 2022 年度第 3 回評議員会の議題について確認した。

◆日本第四紀学会 2022 年度第 3 回評議員会議事録

日 時：2023 年 3 月 22 日（水） 9:00～11:20
方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議
出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、
須貝俊彦（副会長）、（以下、評議員）、
中塚 武（議長代理）、田村 亨、オブラ
クタステープンフィリップ、加 三千
宣、坂下 渉、平林頌子、堀 和明、
吾妻 崇、奥野 充、荻谷愛彦、久保純子、
佐藤善輝、丹羽雄一、菅沼悠介、長橋良隆、
兵頭政幸、水野清秀、井上 淳、江口誠
一、工藤雄一郎、齋藤めぐみ、百原 新、
目代邦康、小荒井 衛、山田和芳
委任状：議長委任 11 通、工藤雄一郎評議員委任 1
通

須貝俊彦副会長の司会で開会され、鈴木毅彦会
長の挨拶、定足数の確認に続いて中塚 武議長（代
理）によって議事が進められた。最後に北村晃寿
副会長の挨拶で閉会となった。

(1) 2022 年度事業中間報告

資料 1 に基づき、担当の各委員長、領域代表ま
たはその代理の評議員会メンバーから報告が行わ
れた。

(2) 2022 年度会計中間報告

資料 2 に基づき、齋藤めぐみ会計委員長から報
告が行われた。

(3) 「第四紀研究投稿規定」改訂の提案（審議事項）

資料 3 に基づき、荻谷愛彦編集委員長から「第
四紀研究投稿規定」の改訂案が提案され、審議の
結果、賛成多数にて承認された。

(4) 若手・学生発表賞に関連する「顕彰規程」お よび「若手・学生発表賞選考に関する内規」の一 部改正の提案（審議事項）

資料 4 に基づき、水野清秀庶務委員長から、「顕
彰規程」の一部と「若手・学生発表賞選考に関す
る内規」の改正案が提案され、審議の結果、賛成
多数にて承認された。

(5) 意見交換

水野庶務委員長より、顕彰受賞者の副賞や記念
品はどのようなものがよいか、また研究助成を実
施したほうがよいのか、会員にアンケートをとり
たい旨の説明があり、意見交換を行った。また、
全体的に会費を減額する、あるいは学生やシニア
層の会費を減額するなどの案についても議論を
行った。執行部会を中心に今後さらに検討を進め
る。

そのほか、会費長期滞納者のリストを確認した。

【資料 1】2022 年度事業中間報告（2022 年 8 月 1 日～2023 年 3 月中旬までの経過）

1-1 庶務委員会（委員長：水野清秀）

(1) 総会を 2022 年 8 月 27 日に大会会場の静岡
県地震防災センターでの対面と Zoom システムを
用いたオンラインとによるハイブリッド会議とし
て行った。また第 1 回評議員会（2022 年 8 月 25
日）、第 2 回臨時評議員会（2022 年 10 月 26 日）
を Zoom を用いたオンライン会議として、第 1 回
通信評議員会を 2022 年 11 月 17 日～11 月 21 日
の間、評議員会メーリングリストを用いた電子メ
ール審議として実施した。執行部会（第 1 回：2022
年 8 月 1 日、第 2 回：10 月 16 日、第 3 回：12 月
14 日、第 4 回：2023 年 2 月 23 日）を Zoom
を用いたオンライン会議として開催した。

(2) 入退会の申し出への対応を行い、会員名簿の
管理を行った。2023 年 2 月 21 日時点での会員数
は以下の通りである。

正会員 905 名（うち学生会費適用者 13 名）、賛
助会員 9 社、名誉会員 20 名。

逝去：吉田栄夫会員、池田明彦会員、小泉明裕
会員、菊地隆男名誉会員

（2022 年総会報告以降）

(3) 2022 年大会若手・学生発表賞受賞者の選考を
選考委員会を立ち上げて行った。

(4) 2023 年学会賞・学術賞・若手学術賞・論文賞・
奨励賞の受賞候補者の推薦募集（締め切り：2023
年 2 月 28 日）を第四紀通信・HP 及び会員 ML を
通じて行った。また、学会賞選考委員会および論
文賞選考委員会を立ち上げ、選考作業の依頼を行っ
た。

(5) 転載許可申請に関する業務を行った（4 件承
認）。

(6) シンポジウム等の共催・後援に関連する業務
を行った（共催：第 32 回社会地質学シンポジウム、
後援：ミニシンポジウム「日本の山火事・野火研究：
地質時代から現在まで」）。

(7) 法務委員会常任委員に欠員が生じたため、第
2 回臨時評議員会にて法務委員会規程を改正し、常
任委員の補充を行った。

(8) 選挙管理委員会を立ち上げ、2023-2024 年度
役員（会長・副会長・評議員）選挙の準備を進めた。
立候補・推薦候補受付締め切り：2023 年 3 月 20 日、
投票期間：4 月 5 日～4 月 24 日、評議員数は現在
より領域 1 を除き各領域 1 名ずつ減少し、計 35 名。

(9) 顕彰規程等に関する検討委員会の答申（2022
年 8 月）をうけて、顕彰規程等の見直しを進めた。

まず、若手・学生発表賞の改正を2023年大会時から適用させるため、関連する改正案を提案する(資料4参照)。また、若手受賞者の副賞や各顕彰受賞者の記念品等に関するアンケート調査を実施することにした。

1-2 会計委員会 (委員長：齋藤めぐみ)

(1) 会則を改正して、会計年度の切り替え時期を6月30日/7月1日とすることを総会にて決定した。それにあわせて会計に関する手続き時期の見直し(前倒し)を進めた。

(2) 「寄付金の取扱い等に関する内規」を第1回評議員会にて成立させ、以降、寄付金に関してはこの内規を適用することとした。

(3) 会費のオンライン決済システムの構築を進め、決済に使用する銀行口座開設の申請等を行った。

(4) 2022年静岡大会の決済処理、第1回事務局委託経費等の支払処理、選挙管理委員会出席交通費の支払処理等を行った。

(5) 2022年度会計中間報告を取りまとめた(資料2参照)。

(6) INQUA若手派遣支援に3名の応募があり、会長・副会長による審議の結果、各人へ25万円ずつの支援を行うこととなった。

1-3 編集委員会 (委員長：荻谷愛彦)

(1) 第四紀研究第61巻3号(論説1編、短報1編、書評1編)、4号(論説1編、短報1編、書評1編)を刊行した。第61巻の総頁数は159頁である。また第62巻1号(受賞記念論文1編、書評1編)を刊行した。受理済み論文については、順次J-STAGEにて早期公開を行った。

(2) 2021年大阪大会シンポジウム特集号(井上淳委員長)および2021年福岡シンポジウム特集号(奥野充委員長)の編集を進めた。現在、両特集号で各2編が受理済み(うち1編は早期公開済み)。

(3) 編集委員会(通常号)をオンライン及びメール審議形式で9回開催した。2023年3月22日現在の通常号手持ち原稿(書評を除く)は受理前12編、受理済5編(うち1編は早期公開済み)。

(4) 第四紀研究第61巻3号から、表紙・背表紙に「書評(Book review)」見出しを掲載することにした。

(5) 執筆要項と投稿用送り状を部分修正し(「図版」の削除等)、2023年2月1日付改訂版を第四紀研究第62巻1号とホームページに掲載した。

(6) 第四紀研究(冊子体および電子ジャーナル)に関連して、①製版・印刷・諸経費など、②別刷単価の価格改定がソウブン・ドットコムから提示され、執行部会で検討のうえ了承した。①につい

ては組版代、刷版代、用紙代などが該当し、約20～25%値上げになる。著者負担のカラーページ印刷料金も約4%値上げになる。②は約10%値上げになる。①の適用は契約更改日(2023年4月1日)、②は会員メーリングリストやホームページで値上げ周知が完了予定の2023年4月1日以降に投稿され、掲載が決定した論文からとする。

(7) 電子投稿の増加などに対応した編集作業手順の変更に伴い、投稿規定の一部改訂案をとりまとめた(資料3参照)。

1-4 広報委員会 (委員長：那須浩郎)

(1) 「第四紀通信」の編集および学会ホームページ、メーリングリストの維持管理を行った。

(2) 「第四紀通信」第29巻5、6号、第30巻1号を編集し、発行した。なお、2023年から「第四紀通信」を「第四紀研究」と同時発送とし、2、5、8、11月に発行することとなった。

(3) 上記「第四紀通信」各号の電子版(PDF版)を、それぞれ発行前月の下旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。

(4) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供等を行った。

(5) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて広報、情報提供等を行った。2022年度の配信件数は2023年3月20日時点で77件(#1481～1557)。なお、会員メーリングリストを悪用したスパムメールが一部会員に配信されたことを受け、配信権者が会員マイページ内から配信する方式に変更した。

1-5 行事委員会 (委員長：工藤雄一郎)

(1) 日本第四紀学会2022年大会を2022年8月26日(金)～28日(日)に静岡県地震防災センター(静岡市)において対面方式で開催した(大会実行委員長：北村晃寿会員、実行委員：中西利典会員、西岡佑一郎会員)。参加者は3日間で延べ82名であった。26、27日の一般研究発表は、口頭発表28件、ポスター発表10件であった。また、27日午後には総会と授賞式が対面とオンラインのハイブリッド方式で行われた。28日午前にはシンポジウム「伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害」が開催され、4件の講演があった。また28日午後には2つの巡検(Aコース：ふじのくに地球環境史ミュージアム、Bコース：熱海市伊豆山地区土砂災害)が行われた。

(2) 2022年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会を2023年2月18日(土)9:30～12:30にオンラインで開催した。事前登録者は165名、当日の参加者は101名だった。講演は、学会賞受

賞者の池原 研会員による「巨大地震時に海底で起こること、そしてその地層記録と新たなチャレンジ」、学術賞受賞者の須貝俊彦会員による「湿潤変動帯島弧の山地・河川・平野の地形発達史研究—回顧と展望—」、学術賞受賞者の澤井祐紀会員による「地層の記録が明らかにする過去の巨大地震・津波」であった。

(3) 2023年大会を2023年8月31日(木)～9月4日(月)に早稲田大学所沢キャンパスを会場として開催する予定で準備を進めている(大会実行委員長:山田和芳会員、実行委員:久保純子会員、納谷友規会員、工藤雄一郎会員、ほか)。プレ巡検は8月31日、一般研究発表は9月1日・2日、総会は9月2日、シンポジウム(仮テーマ:都市環境～ウェルビーイングな社会創出のための第四紀研究)、普及講演会(鈴木毅彦会長)、アウトリーチ巡検は9月3日、専門巡検(入間川沿いの下部更新統仏子層の観察)は9月4日を予定している。

(4) 2024年大会の開催地候補として仙台市で実施が可能か、検討を進めている。

1-6 渉外委員会(委員長:山田和芳)

(1) 日本地球惑星科学連合(JpGU)関係

JpGU学協会長会議が2022年11月29日(月)にオンラインにて開催され、鈴木会長が参加した。また、2023年1月20日に臨時総会が開催され、鈴木会長が参加した。2023年大会(5月21日～26日)のセッションとして『第四紀:ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』は総数30講演、共同開催『活断層と古地震』は総数26講演となり、今後、プログラム編成でコマ数等調整される。

(2) 防災学術連携関係

2022年10月22日(土)に開催された第14回防災学術連携シンポジウム・ぼうさいこくたい2022「自然災害を取り巻く環境の変化—防災科学の果たす役割」の第2部特別シンポジウムにおいて、北村晃寿副会長(静岡大学)が日本第四紀学会を代表して、日本古生物学会と共同提案する形で「熱海の盛土崩壊の原因に関する地球科学的研究」と題した講演を行った。2023年4月11日(火)にシンポジウム「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」が開催される。

(3) 自然史学会連合関係

自然史学会連合の総会が2022年12月4日(日)にオンラインで開催された。百原 新委員が参加した。

1-7 領域1「気候変動及び海洋の諸プロセス」

(領域代表:田村 亨)

(1) The Anthropocene Review に投稿した別府湾

サイトのGSSP審査用論文が2022年10月7日に受理された。その後、Anthropocene Working Group内で審査、投票が行われた。

(2) 2023年3月2日(木)に東京大学大気海洋研究所主催で実施された共同利用研究集会「古気候研究におけるプロキシとモデルの融合:温暖期の気候変動」を領域1の共催とした。

1-8 領域2「陸上の諸プロセス」

(領域代表:堀 和明)

(1) 2021年7月24日・25日に開催した共催遠隔シンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害:防災・減災に向けて」の内容を第四紀研究の特集号とする編集作業を進めた。

(2) 2023年3月25日(土)～26日(日)に開催される国際火山噴火情報研究集会EHAI 2022-2に領域2が後援として参加する。

1-9 領域3「層序と年代基準」(領域代表:卜部厚志)

1-10 領域4「人類と生物圏」(領域代表:海部陽介)

(1) 2022年11月26日(土)に大阪公立大学杉本キャンパスで開催されたミニシンポジウム「日本の山火事・野火研究:地質時代から現在まで」を後援し、井上 淳会員が中心となって準備を進めた。

(2) 2023年3月5日(日)10:00～17:00に、オンライン公開シンポジウム「縄文時代早期人とその生態—群馬県居家以岩陰遺跡を中心に—」を主催した。8名による講演とパネルディスカッションが行われた。事前登録205名、当日参加者141名であった。

1-11 領域5「現代社会に関わる第四紀学」

(領域代表:目代邦康)

(1) 「第四紀とは」の改訂版パンフレットの作成作業を開始した。

(2) 「被災地域での災害遺構を使つての情報発信、地学・地理教育、ジオパーク活動」といった内容でのシンポジウムを計画している。開催地の候補は阿蘇や宮城県栗原市など。

(3) 2023年早稲田大会のシンポジウムについて、領域5が協力することで調整中である。

1-12 オンライン委員会(委員長:久保田好美)

(1) オンラインによるシンポジウム・講演会等の補佐を行った。

(2) 2022-2023年度の学会行事等をweb上のカレンダーを作成してアップした。

【資料2】2022年度会計中間報告

2022年度収支中間会計報告
(2022年8月1日～2023年1月31日現在)

科目	予算額①	1月31日現在②	増減②-①	執行率②/①	摘要
会費収入	8,328,000	8,174,000	-154,000	98.2%	
正会員会費収入	8,128,000	7,974,000	-154,000	98.1%	通常会員会費7,884,000円 学生会員会費70,000円 海外会員会費20,000円
賛助会員会費収入	200,000	200,000	0	100.0%	20,000円×9社(10口)
誌代	600,000	0	-600,000	0.0%	定期雑誌購入、Back No
別刷代・超過頁代収入	250,000	486,430	236,430	194.6%	61巻3号・4号 別刷・カラー代等
雑収入	150,000	118,418	-31,582	78.9%	JST等
利子収入	1,000	61	-939	6.1%	預金利息
広告料収入	0	0	0		2022年大会予稿集広告無しの為
役員選挙積立金取崩収入	200,000	0	-200,000	0.0%	
INQUA対策積立金取崩収入	300,000	0	-300,000	0.0%	
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0		名簿作成積立金取崩(マイページ機能より不要の為)
予備費積立金取崩収入	0	0	0		
収入合計	9,829,000	8,778,909	-1,050,091	89.3%	
前期繰越金	21,205,772	21,205,772	0	100.0%	
合計	31,034,772	29,984,681	-1,050,091	96.6%	

科目	予算額①	1月31日現在②	増減②-①	執行率②/①	摘要
会誌発行費	3,101,200	1,046,650	-2,054,550	33.7%	第四紀研究 61巻3号・4号
印刷費	1,500,000	978,340	-521,660	65.2%	61巻3号～4号印刷費・61巻1～4号J-STAGE早期公開掲載費
編集費	300,000	0	-300,000	0.0%	※年度末精算
編集人件費	1,201,200	0	-1,201,200	0.0%	※年度末精算
別刷印刷費	100,000	68,310	-31,690	68.3%	61巻3号～4号
会誌・会報発送費	700,000	372,999	-327,001	53.3%	第四紀研究 61巻3号～4号、第四紀通信 29巻4号～6号
会報発行費	785,000	513,756	-271,244	65.4%	第四紀通信 29巻4号～6号
印刷費	500,000	308,220	-191,780	61.6%	29巻4号～6号
編集費	75,000	74,236	-764	99.0%	第四紀通信編集費
編集人件費	210,000	131,300	-78,700	62.5%	第四紀通信編集アルバイト代・編集ソフト更新料他
学会HP運営費	170,000	45,582	-124,418	26.8%	HP更新アルバイト代・ドメインサービス利用料
大会運営準備金	380,000	0	-380,000	0.0%	2023年大会運営準備金
巡検準備金	100,000	0	-100,000	0.0%	2023年大会分
講演会・シンポジウム	50,000	0	-50,000	0.0%	
予稿集印刷費	0	0	0		
学会賞等顕彰費	350,000	173,964	-176,036	49.7%	学会賞等賞状作成費、若手学術賞・奨励賞副賞
会議費	60,000	0	-60,000	0.0%	
通信費	380,000	107,560	-272,440	28.3%	会費請求書発送費、事務通信費等
旅費・交通費	100,000	42,880	-57,120	42.9%	会計監査会交通費
印刷費	350,000	164,544	-185,456	47.0%	学会専用封筒、コピー代
業務委託費	2,550,000	1,045,000	-1,505,000	41.0%	事務委託費(第1回概算)
領域活動費	750,000	0	-750,000	0.0%	
領域1	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域2	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域3	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域4	150,000	0	-150,000	0.0%	
領域5	150,000	0	-150,000	0.0%	
INQUA対策費	1,000,000	0	-1,000,000	0.0%	
役員選挙費	400,000	0	-400,000	0.0%	
名簿作成費	-	-			
INQUA対策積立金繰入支出	0	0	0		
役員選挙費積立金繰入支出	0	0	0		※年度末精算
名簿作成積立金繰入支出	-	-			
予備費積立金繰入支出	0	0	0		※年度末精算
加盟学協会分担金支出	50,000	0	-50,000	0.0%	
国際科学技術コンテスト協賛金支出	50,000	0	-50,000	0.0%	
雑費	50,000	5,087	-44,913	10.2%	振込手数料等
予備費	200,000	0	-200,000		
支出合計	11,576,200	3,518,022	-8,058,178	30.4%	
次期繰越金	19,458,572	26,466,659	7,008,087	136.0%	
合計	31,034,772	29,984,681	-1,050,091	96.6%	

貸借対照表
(2023年1月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産		流 動 負 債	
郵便振替	8,260,228	前受会費	28,000
小口現金	2,252,320		
普通預金	16,473,445	小 計	28,000
現金(事務局)	8,666	正 味 財 産	
固 定 資 産		名簿作成積立金	0
定期預金	10,000,000	役員選挙積立金	200,000
		INQUA対策積立金	300,000
		予備費積立金	10,000,000
		次期繰越金	26,466,659
		(前期繰越金	21,205,772)
		(当期収支差額	5,260,887)
		小 計	36,966,659
合 計	36,994,659	合 計	36,994,659

財 産 目 録
(2023年1月31日現在)

資 産 の 部 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	8,260,228
小口現金	編集書記手許金	2,252,320
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	16,266,318
	三井住友信託銀行本店営業部	207,127
現金	事務局手持ち金	8,666
流動資産合計		26,994,659
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合計		36,994,659

負 債 の 部 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
前受会費	2023年度以降年会費	28,000
合計		28,000

正 味 財 産 の 部 (単位：円)

科 目	摘 要	金 額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	0
役員選挙積立金	役員選挙積立金	200,000
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	300,000
予備費積立金	予備費積立金	10,000,000
次期繰越金		26,466,659
	前期繰越金	21,205,772
	当期収支差額	5,260,887
合計		36,966,659

【資料3】「第四紀研究投稿規定」改訂の提案

編集委員会では、電子投稿の増加などに対応した編集作業手順の変更に伴い、投稿規定の一部改訂案を提案する。主な改訂点は次のとおり。

- (1) 「6. 投稿手続き」において電子投稿の手続きを最初に説明する（現行は郵送投稿の説明が先）。また、従来は「図版」の扱いがあったが、実質的に「図」扱いのため規定全文から「図版」を削除する。
- (2) 「8. 受付後の原稿の処理」および「11. 原稿の返却」において、掲載の可・不可にかかわらず、投稿された原稿などは原則として返却せず、編集委員会の責任において適切に処分する手順に改める。ただし、著者から事前の申し出があれば、その都度対応する。

第四紀研究投稿規定（改訂案；下線部が追加または修正部分）

(2011年8月26日, 2013年8月22日, 2017年12月17日, 2019年1月12日, 2019年6月30日, 2021年1月22日, 2021年4月8日, 2023年3月22日 評議員会一部改正)

1. 投稿資格

投稿者の少なくとも1人は投稿時に本会会員であること。ただし、編集委員会による依頼投稿の場合はこの限りではない。

2. 第四紀研究に投稿しうる原稿

内容が日本第四紀学会倫理憲章前文にある第四紀に関わるものであり、体裁が別に定めた「執筆要項」に合致する、と編集委員会が認めたもの。

2-1. 言語：日本語または英語。

2-2. 原稿の種目

- ・論説 Article：投稿者自身によるオリジナルで未公表の研究成果をまとめたもの。
- ・短報 Short Article：研究の中間報告など大きな研究の一部をなすもの、および速報性を必要とするもの、および資料として特に重要なもの。
- ・総説 Review：ある分野に関する研究成果を総覧し、総合的にまとめ、研究史、研究の現状、将来への展望などにふれたもの。
- ・討論 Discussion：本誌に掲載された論説・短報・総説などについて、投稿原稿のかたちで1年間、コメント（賛否・注釈・質問など）を受け付け、編集委員会の判断により、意義のあるものを誌上に公開する。必要に応じて、原著者の回答も掲載する。
- ・資料 Note：露頭・化石・遺物・景観などのスケッチ・写真および第四紀学的に貴重な標本・資料などに平易な説明をつけたもの。

- ・口絵 Pictorial：第四紀学に関連する露頭・化石・遺物・景観などの写真や重要な図などに簡単な説明をつけたもの。ただし、カラー化によって情報を出すことが不可欠であると編集委員会が認めたものに限る。
- ・解説 Comment：第四紀学に関連するテーマ・用語などについての解説。
- ・講座 Lecture：ある分野の研究の現状・成果や調査法・分析法などを、特に他分野の会員に紹介・普及する目的で平易に書かれたもの。
- ・書評 Book Review：単行本などの内容の紹介および批評。
- ・雑録 Miscellany：学会もしくは第四紀学に関する記事・報告など。ただし、編集委員会が認めたものに限る。

2-3. 原稿の長さ：総説は刷り上がり24ページ以内、論説・講座は16ページ以内、短報は8ページ以内、討論・解説・資料は4ページ以内、口絵・書評は2ページ以内とする。ただし、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。なお、刷り上がり1ページは引用文献を除くと25字×43行×2段で、引用文献は28字×62行×2段である。やむを得ず超過した場合は、その費用は依頼原稿を除き著者の負担とする。

2-4. 電子付録：著者の申し出があり、かつ別途定める第四紀研究電子付録掲載要項に基づいて編集委員会が適当と判断する場合、原稿の掲載にあわせて、原稿の内容の一部を第四紀研究電子付録として日本第四紀学会ホームページとJ-STAGE Dataに掲載することができる。

3. 不正行為（特定不正行為）の禁止

以下に示す、投稿者による不正行為（特定不正行為）^{注1}を禁止する。

- (1) 捏造 存在しないデータ、研究結果などを作成すること。
 - (2) 改ざん 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果などを真正でないものに加工すること。
 - (3) 盗用 他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文または用語を当該研究者の了解または適切な表示なく流用すること。
- 注1. 不正行為（特定不正行為）については以下に基づく。

文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」

(https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf)

4. 二重投稿の禁止

二重投稿とは、印刷物あるいは電子媒体において、既に出版された、ないしは、他の学術誌に投

稿中の論文と本質的に同一の内容の原稿をオリジナル論文として投稿する行為である^{注2}。二重投稿を第四紀研究では禁止する。

注2. 二重投稿については以下に基づく。

日本学術会議「回答 科学研究における健全性の向上について」

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-k150306.pdf>)

5. 著作権

5-1. ほかの出版物または投稿中の論文と重複した内容を持つ原稿は、投稿原稿の本文中に必ずその旨を明記し、投稿者自身で著作権問題を解決し、かつそれを示す資料を添える。

5-2. ほかの出版物より図・表などを引用する場合は、転載許可を受けるなど、投稿者自身が著作権問題を解決しておくものとする。

5-3. 掲載された論文の著作権（著作財産権、copyright）およびすべての媒体を通じての公表に関する権利は、本誌（冊子体・電子媒体などの形式にかかわらず）に掲載された時点から日本第四紀学会に帰属するものとする。

5-4. 日本第四紀学会が著作権を保有する著作物を利用するにあたっては、別途定める出版物利用規定に従い、日本第四紀学会からの受諾を得るものとする。

6. 投稿手続き

投稿は以下のいずれかによる。詳細は、別に定める「執筆要項」も参照すること。

電子投稿の場合は、「原稿・図・表・送り状・所定の保証書（押印またはサイン入り）」をPDF形式で保存し、電子メールの添付書類として、編集委員会（本規定の末尾および会誌奥付の学会事務局のメールアドレス）に送付する。原稿・図・表は可能な限り一つのファイルとする。ファイルが5 MB より大きい場合には大容量ファイル転送サービスなどを利用する。

郵送による投稿の場合は、封筒に「第四紀研究原稿」と明記して原稿・図・表・送り状のコピー3部とその電子ファイルを、所定の保証書（押印またはサイン入り）とともに、編集委員会（本規定の末尾および会誌奥付の学会事務局の住所）に送付する。編集委員会から要請があった場合には、図・表の原図を提出する。

7. 受付

編集委員会が原稿を受けとった日を受付日とする。

8. 受付後の原稿の処理

8-1. 編集委員会は、投稿原稿の内容に応じてレフェリーを決め、査読を依頼する。

8-2. 編集委員会は、査読結果を参考に原稿の内容・表現に問題があると判断したときには、投稿者に

修正を求めることができる。また「執筆要項」に従い、用語・用字などを変更することがある。活字の種類・大きさ、図・表の大きさや全体の体裁は、編集委員会が決める。

8-3. 原稿が修正のため投稿者の手元にかえったまま6ヶ月経過したときは、その投稿原稿は取り上げられたものとみなす。

8-4. 投稿原稿の受理は編集委員会が決める。編集委員会が掲載を決定した日付をもって受理日とする。投稿者は、編集委員会から投稿原稿受理の通知があった場合には、著作権等譲渡同意書に必要な署名をし、最終原稿とともに提出する。これにより、掲載が許可される。

8-5. ワードプロセッサ使用の原稿は、受理時の最終原稿の電子ファイルを提出する。

8-6. 受理後、原稿の細部の体裁は、編集委員会が調整・判断し、修正を求めることがある。

8-7. 投稿原稿の掲載不可は編集委員会が決める。掲載不可となった原稿・図・表などは原則として返却せず、編集委員会の責任で適切に処分する。

9. 校正

著者校正は初校時のみ行う。著者校正時の加筆は原則として認めない。著者は、初校ゲラを受け取ったら速やかに校正を行ない、編集委員会（編集書記）に返送する。期日までに返送がない場合は、著者校正を省略するか、次号にまわすこともある。

校正時の著者責任による図・表などの差し替えにかかる費用は全額著者負担とする。

10. 別刷

別刷は50部単位で希望することができる。別刷費用については別途定める。掲載された原稿の電子ファイル(PDFファイル)は著者(論文責任者)に提供される。

11. 原稿の返却

掲載された原稿・図・表などは原則として返却せず、編集委員会の責任で適切に処分する。掲載されなかった原稿・図・表などは、上記の投稿規定8-7. に定めたとおりとする。返却を希望する場合は、投稿時に編集委員会まで申し出る。

12. 投稿規定の改正

この「投稿規定」の改正は、執行部会が原案を作り、評議員会に報告して承認を求める。「執筆要項」および「電子付録掲載要項」は編集委員会がこれを定め、改正があったときは執行部会に報告し、承認を求める。

付則 本規定は2023年3月22日から実施する。

・上記の投稿規定2-3. 超過分の著者負担は、1ページにつき10,000円とする。

・原稿送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保
2-4-12 新宿ラムダックスビル
日本第四紀学会編集委員会
メールアドレス daiyonki@shunkosha.com

【資料4】若手・学生発表賞に関連する「顕彰規程」および「若手・学生発表賞選考に関する内規」の一部改正の提案

執行部会では、顕彰規程等に関する検討委員会や若手・学生発表賞選考委員会の答申等を受けて、顕彰規程および関連する内規の改正案を検討してきた。2023年大会での若手・学生発表賞の選考から適用する目的で、まずは若手・学生発表賞に関連する「顕彰規程」および「若手・学生発表賞選考に関する内規」の改正案を提案する。

主な改正点は以下の2点である。顕彰規程等に関する検討委員会の答申では、奨励賞および若手発表賞の対象年齢を35歳以下とすることが多数意見であったと述べられている。これを受けて、若手発表賞の対象年齢を現行の39歳以下から35歳以下に変更する。また過去、複数年の若手・学生発表賞選考委員会の答申では、同一者の複数回の受賞は避けたいという回答が見られた。これを受けて、若手・学生発表賞のすべての部門を合わせた受賞回数が、現行では3回までとなっているが、2回までに変更する。そのほか、規約には反映していないが、若手・学生発表賞のノミネート数や審査可能者は、大会ごとに事情が異なることがあるので、審査方法や審査委員の選出は、行事委員会、各領域代表や領域担当の副会長を中心に、臨機応変に対応することとした。

日本第四紀学会 顕彰規程 改正案（関連する部分のみ抜粋、下線部が修正部分）

（2017年6月17日、評議員会にて決定）
（2023年3月22日、評議員会にて一部改正）

第8条 日本第四紀学会若手・学生発表賞（以下「若手・学生発表賞」と略す）は、大会で優秀な発表を行った若手会員および学生会員に授与し、若手研究者・学生会員の育成と研究奨励に寄与することを目的とする。

【現行】

2. 若手・学生賞の受賞候補者は、選考が行われる大会開催年の8月1日時点で39歳以下または学生の正会員とする。

【修正案】

2. 若手・学生賞の受賞候補者は、選考が行われる大会開催年の8月1日時点で35歳以下または学生の正会員とする。

第13条 若手・学生発表賞の受賞者を選考するため、大会ごとに「発表賞選考委員会」を設置する。

第17条 発表賞選考委員会は、各領域から推薦された各1名の委員で構成され、執行部会によって承認される。

第20条 発表賞選考委員会の委員長および委員の任期は、選出された時点から選考結果が報告されるまでとするが、再任を妨げない。

第24条 発表賞選考委員会は、若手・学生発表賞の受賞者を選考し、執行部会が受賞者を決定する。

第27条 若手・学生発表賞の受賞者には、賞状を授与する。

第28条 本規程に定めるもののほか、各賞の選考に関わる必要事項は内規に定める。

第29条 本規程の変更には、評議員会の承認を必要とする。

【現行】

付則1 本規程は、2017年8月1日から施行する。

【修正案】

付則1 本規程は、2023年3月22日から施行する。

日本第四紀学会 若手・学生発表賞選考に関する内規 改正案（下線部が修正部分）

（2014年9月6日、評議員会にて決定）
（2017年6月17日、評議員会にて一部改正）
（2023年3月22日、評議員会にて一部改正）

[授賞の対象]

1. 選考の対象は、申し込み時にエントリーがあった発表とする。
2. 賞の部門は口頭若手部門、口頭学生部門、ポスター若手部門、ポスター学生部門とする。
3. 上記の全部門を通じて、エントリーは大会ごとに1件までとする。
4. 受賞数は、対象者発表数の2割程度以下を目途とする。

【現行】

5. 一人あたりの受賞は上記の全部門を通じて、原則として、合計3回までとする。

【修正案】

5. 一人あたりの受賞は上記の全部門を通じて、原則として、合計2回までとする。

[選考作業]

6. 委員任命にあたっては、大会に参加することが可能であることを本人に確認するとともに、できるだけ審査対象の発表の共同著者ではない者となるように配慮する。

7. 審査にあたっては、客観的な審査が行えるように、複数の審査項目を設けた採点表を用意する。

8. すべての審査対象の発表が終了した後、速やかに採点表を回収して集計を行う。

[選考結果の報告]

9. 集計作業が終了した後、委員長は選考結果を執行部に報告する。

10. 執行部は、選考結果の確認を受けた後、受賞者に結果を報告するとともに、賞状を送付する。

【現行】

11. 執行部は「第四紀通信」に通じて会員に選

考結果を報告する。

【修正案】

11. 執行部は「第四紀通信」を通して会員に選考結果を報告する。

[その他]

12. 2011年大会の発表賞、2012年と2013年大会の若手・学生発表賞、2014年大会の若手発表賞は、本内規の「若手・学生発表賞」に相当する賞と見なす。

13. 本内規の変更には、評議員会の承認を必要とする。

【現行】

14. 本内規は、2017年8月1日から施行する。

【修正案】

14. 本内規は、2023年3月22日から施行する。

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日本第四紀学会では、第四紀通信のほか、メーリングリスト (ML)、ホームページ (HP) を用いて情報発信をしております。メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス ([jaqua-koho\(at\)quaternary.jp](mailto:jaqua-koho(at)quaternary.jp)) へご投稿ください。

情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願いします。ML へのご投稿についての詳細は、第四紀通信 29 巻 4 号の巻末をご覧ください。HP (<http://quaternary.jp/>) でも閲覧可能です。

第四紀通信には主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報を、HP には主催・後援イベントなどのほか「公募・助成」情報等を掲載します。

詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

日本第四紀学会広報委員会

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : [daiyonki\(at\)shunkosha.com](mailto:daiyonki(at)shunkosha.com) 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176